



水虫について

梅雨時から夏にかけて、足の裏や指の間がかゆくなったり、じくじくしてくると「また水虫になった…」と憂鬱になってしまう方も多いのではないのでしょうか？

水虫の患者さんは全国に 1500 万人いるといわれています。治療に通っていない潜在的な患者さんまで含めると、その数は 3000 万人にもものぼるといわれています。

適切な予防と治療で、今年こそ水虫に悩まされない夏を過ごしましょう。



水虫とは？

白癬菌（はくせんきん）というカビの一種が皮膚の角質層に感染して起こります。白癬菌は角質層の成分であるケラチンというたんぱく質を栄養源として増加します。「水虫は必ずかゆみが起こる」と思っている人も多いようですが、かゆみの生じない水虫もあります。かゆみがない場合でも皮膚の症状がある場合には受診しましょう。水虫は足だけでなく、頭や体、手や爪にもできますが、水虫ができる部位によって病名が変わります。



水虫のタイプは主に次のように分けられます

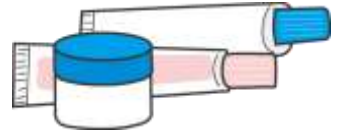
- ・ 趾間型：指の間にできてじくじくしてかゆみがあり、やがて皮膚がぶよぶよして白っぽくなったり、皮がむけたり、赤くただれたりしてきます。ただれてくると痛みがあり、皮がむけたふちの部分の皮膚が硬くなってひび割れてくることもあります。
- ・ 小水疱型：足の裏や側面などにブツブツと小さな水膨れができる。強いかゆみがあり、水膨れの周辺が赤っぽく腫れることもあります。
- ・ 角化型：足の裏やふちの部分の皮膚が厚くなってカサカサと乾燥し、かかとがひび割れたりボロボロと皮がむけたりします。かゆみが少ないので、肌荒れと間違えやすいのが特徴です。

皮膚の水虫を長年放置して、白癬菌が爪に入り込むと、爪が白く濁って厚くなったり、ボロボロと欠けたりする「爪白癬」が起こります。

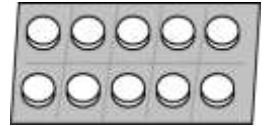


水虫の治療

趾間型や小水疱型の水虫には、患部に薬を塗って治療します。白癬菌は、症状のないところにも潜んでいるため、塗り薬は、1日1回、足の裏全体や、指の間、甲側まで広い範囲に塗ることが大切です。2週間ほどするとかゆみなどの症状がなくなりますが、ここで治療をやめると再発しやすいので注意しましょう。白癬菌は、はがれた皮膚の中でも生き続けると言われるほど生命力が強いため、症状が落ち着いたあとも1ヶ月くらいは根気よく治療しましょう。お風呂上がりの皮膚が柔らかくなった時に塗るとよいでしょう。



角化型や爪白癬は、角質層や爪が厚いため、外用薬が届かないことがあります。そのような場合の治療には内服薬が有効です。内服薬は、ある程度の期間継続した服用が必要になります。趾間型でも患部のただれやひび割れがひどいときや、外用薬でかぶれたときなどに、内服薬を用いることもあります。



肝臓が悪い場合、妊娠中や妊娠の可能性がある場合、授乳中の場合など、体の状態によっては内服薬を服用できないこともあるので注意が必要です。また、他の薬を服用している場合には飲み合わせにも注意しなければなりません。

治療の前に必ず医師に相談しましょう。



水虫の予防と再発を防ぐために



- スリッパ、サンダルなどは共用しない
- 靴や靴下は通気性のよいものを選び、毎日同じ靴を履かない
- こまめに床の掃除をする（ほこりにも白癬菌は潜んでいる）
- 足の裏をよく洗い、清潔な状態を保ち白癬菌の侵入を防ぐ
- バスマット、靴下はこまめに洗濯し、日光に当てて乾かす



水虫について詳しく知りたい方は、医師または薬剤師にご相談ください。

(きょうの健康 2011.6 / healthクリック / ロート製薬 / e
治験ドットコム 参照)



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233

FAX 019-635-4555

オーロラ薬局 沼宮内店

TEL 0195-61-3883

FAX 0195-62-6868

オーロラ通信はバックナンバーも含めホームページでもご覧になれます。

<http://www.iwate-aurora.com/>